

## 都立病院が担うべき医療の再整理の論点

行政的医療の再点検・拡充      地域へのさらなる貢献

**専門性の発揮**

役割

■医療の高度化や高齢化からくる患者の症状の複雑化に対応し、今後も継続して質の高い医療を提供していくためには、都立病院の「強み」である総合診療基盤を総動員するとともに、専門性を向上していくことが求められる。

視点

- I 高度・先駆的な技術の開発・導入
- II 複数の専門性の組合せによる高次元の医療の拡充
- III 臨床研究の推進

## 視点II 複数の専門性の組合せによる高次元の医療の拡充

### 現状認識

- がん医療の高い専門性と総合診療基盤を活用し、合併症併発患者へのがん医療を提供
- 既往の精神疾患への専門性と身体疾患の専門性を組み合わせ、一般医療機関では対応困難な精神科身体合併症医療を提供
- 周産期医療機能と救命救急センターによる母体救命対応周産期医療を実施
- 小児の臓器別専門診療機能と救命救急・集中治療部門による多臓器にわたる先天性疾患・特殊疾患の治療を実施

### 方向性

- ◆ 高齢者の疾患構造特性を踏まえた対応力の向上
  - 急激に増加する高齢者は複数の疾患を併せ持つことが多いため、総合的な診療体制と複数の専門性を組み合わせた高次元の医療の充実が重要
  - 体制拡充の検討に当たっては、単一の病院での対応のみならず、都立病院間のネットワークで対応するなど効率的な体制づくりを検討すべき
  - 認知症の人が身体疾患の急性期医療等を受けるために入院する場合の適切な医療の提供も重要
- ◆ 患者のライフスタイルに応じた対応力の強化
  - 患者の生活環境等に配慮し、医師だけでなく他の職種の専門性も一体となった医療の提供が重要
  - 患者への適切な情報提供や相談支援等も、重要な専門性の発揮

## 視点I 高度・先駆的な技術の開発・導入

### 現状認識

- 駒込病院や小児総合医療センターでは、高い専門性を活かし医師主導治験を実施
- 駒込病院、多摩総合医療センター、小児総合医療センターにおいて先進医療に取り組んでいる
- 駒込病院ではダヴィンチを活用した大腸手術を先駆的医療として実施する検討を、小児総合医療センターでは、国家戦略特区を活用した先進医療の開発に取り組んでいる

### 方向性

- ◆ 高度・先駆的な技術の開発・導入による医療水準の向上と都民への還元
  - 医療の進歩に遅れることなく、高度・先駆的な技術を導入していくことも必要
  - 患者の選択肢を広げ、利便性を高めるという観点からも高度・先駆的な技術の開発・導入は有益
  - 豊富な症例を生かした効果的な治療法等の開発・発信による医療水準の向上にも貢献
  - 都立病院に期待される役割を踏まえた必要性の精査や大学病院等との役割分担が必要
- ◆ 都民の納得が得られるよう、開発・導入計画の「見える化」を推進
  - 効果的・効率的に新たな技術の導入・開発を行うため、各病院の特性を踏まえるとともに、病院間の情報共有等が必要
  - 技術の開発・導入に当たっては、計画を立て、目的と到達点をしっかり管理し、検討段階から臨床適応等の到達点までの達成度マネジメントが重要

## 視点III 臨床研究の推進

### 現状認識

- 駒込病院、多摩総合医療センター、小児総合医療センターでは、それぞれ臨床研究を支援する部門を持ち、臨床研究等に取り組んでいる
- その他の都立病院においても、既存の体制を活用して治験や臨床研究に取り組んでいる
- 都立病院の豊富な症例実績の効果的な活用について検討を行っている

### 方向性

- ◆ 豊富な臨床実績を有効活用し、医療の質の向上・発展に貢献
  - 都立病院は、豊富な臨床実績を有することから、臨床データ等を臨床研究に有効活用することで、医療の質や技術の向上に貢献することが求められる
  - 都立病院が今後も継続して専門性の高い医療を提供していくには、専門性の追求も必要
  - 研究内容については、各病院の役割や医療機能等を踏まえ、必要性を精査
  - 希少疾患等の臨床実績を有する小児や精神等の専門領域においては、積極的に臨床研究を推進し、医療の質の向上・発展に寄与
- ◆ 効果的・効率的な臨床研究支援体制の構築
  - 効率的・効果的な体制となるよう、中央部門と各病院（ブランチ）の機能の整理や、倫理委員会の役割の見直しの検討が必要
  - 臨床研究支援体制に合わせた人材の確保・育成方法を確立することが望ましい

## 都立病院が担うべき医療の再整理の論点

行政的医療の再点検・拡充

地域へのさらなる貢献

専門性の発揮

役割

■都立病院の総合診療基盤や高度な専門性を活用し、地域包括ケアシステムの構築に向けた支援、地域に不足する医療や今後需要が求められる医療の補完など、地域医療の充実への貢献が求められる。

視点

I 地域包括ケアシステムの構築に向けた連携・支援

II 地域包括ケアシステムを担う医療機関との連携・支援

III 専門性を生かした地域住民等への普及・啓発

### 視点I 地域包括ケアシステムの構築に向けた連携・支援

#### 現状認識

- 地域の実情等様々な要因が複合していることが想定されるが、全国平均と比べ在院日数の長い患者の割合が高い
- 一般の医療機関では対応が困難とされている合併症や複数の疾病を有する患者に対する医療に積極的に取り組むことへの期待は大きい
- 急性期治療後に住み慣れた地域で治療を継続できるよう、医療連携の強化が必要
- 地域の実情に応じた医療機能の分化・連携を進めることが必要

#### 方向性

##### ◆ 地域医療構想を踏まえた切れ目のない医療連携の推進

- 地域の医療資源や今後の需要の変化等を踏まえ、都立病院の機能や地域の医療機関との役割分担について改めて検討することが必要
- 実効性のある切れ目のない医療連携を築くため、都立病院の医療人材について地域での活用が可能となるよう制度を柔軟化することも必要
- 地域医療構想を踏まえ、民間病院や公社病院との連携の在り方を検討することが必要

##### ◆ 転院・退院調整機能の充実・強化

- 地域の医療機関等との役割分担を踏まえた逆紹介等、退院調整を促進
- 効率的な医療の提供に資するため、医療機関以外の退院先の確保など、連携施設の多様化を推進

##### ◆ 地域の医療機関等の人材交流の実施

- 都立病院が有する人材の派遣や地域の医療機関からの人材の受入を通じた地域の医師や看護師等の育成の支援が期待される

### 視点II 地域包括ケアシステムを担う医療機関との連携・支援

#### 現状認識

- 地域医療構想において、患者の状態に応じた適切な医療を提供するため、医療機関間の連携の強化や、入院患者を円滑に在宅療養生活に移行させるため、入院早期からの適切な支援を行うことが課題として整理
- 在宅療養患者の急変時に、患者の状態に応じて適切な医療機関に入院できる体制の確保が必要
- 小児や精神疾患患者等が地域で安心した生活を送ることのできる体制の整備が必要

#### 方向性

##### ◆ 地域医療機関等への支援の充実

- 歴史的・文化的に培われてきた医療資源を最大限に活用し、効果的な医療連携を推進
- 医療環境が変化している過程において、在宅移行における関係機関との連携体制等の次世代モデルを提示し、普及させることも都立病院の役割
- 地域に不足する医療や今後需要が求められる医療などに対応し、医療連携の円滑化や地域の医療機関を支援するための取組について検討
- 地域移行が困難な小児や精神、難病患者等の地域移行実現に向けた支援の実施

##### ◆ 地域の医療者等への支援

- 地域医療のレベルアップに貢献するため、都立病院は専門性を生かした研修や技術支援など、地域の医療者の育成への支援が期待される

### 視点III 専門性を生かした地域住民等への普及・啓発

#### 現状認識

- 各病院では専門性を活かした都民向けの公開講座を開催
- 駒込病院においてがん教育として地元区、近隣区と連携し、児童・保護者等に講演を実施
- 小児総合医療センターでは小児救急や発達障害等に係る保護者・家族向けのシンポジウムを開催
- 都立病院が持つ専門的知識の都民への還元は重要

#### 方向性

##### ◆ 患者や家族、地域の医療者、住民等の意見などを取り入れ、地域包括ケアシステムの育成につながる取組を推進

- 地域包括ケアシステムの担い手や区市町村と一体となって普及啓発を実施する等、院内だけでなく効果的な方法で行うことを検討
- 介護情報が十分に行き届かない等の現状があるため、地域包括支援センターとの連携により医療情報と合わせて介護情報等の必要な情報を提供することができればよい

##### ◆ 様々な機会を捉え、都の医療の向上に貢献

- 企業と連携した効果的な普及啓発など、都の特性を生かした取組の実施などにより、都の医療の向上に貢献
- 医療周辺分野や社会的要請のある分野、新たなニーズ等にも対応することが望ましい。